

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 6 月 2 日 (2005.6.2)

【公開番号】特開 2002-146990 (P2002-146990A)
 【公開日】平成 14 年 5 月 22 日 (2002.5.22)
 【出願番号】特願 2000-343967 (P2000-343967)
 【国際特許分類第 7 版】

E 0 4 F 13/02
 E 0 4 B 1/682
 E 0 4 F 13/04

【F I】

E 0 4 F 13/02 K
 E 0 4 F 13/04 1 0 2
 E 0 4 B 1/68 L

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 8 月 18 日 (2004.8.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の外壁材を、互いにその側端部を突き合せて下地材に装着すると共に、上記側端部の突き合せ部分の表面側には弾性目地処理材を被覆してなり、

また、該弾性目地処理材の内部には、多数の穴を有し該弾性目地処理材が貫通可能な多穴シートを配置し、

かつ上記弾性目地処理材の表面には弾性塗料を被覆してなる外壁の無目地構造であって

、
 上記多穴シートは、上記外壁材の側端部を突き合せることによって形成される目地線に沿った長径部と、上記目地線に直交する方向に沿うと共に上記長径部よりも短い短径部とからなる開口部分を有し、

かつ上記多穴シートにおける 1 cm^2 あたりの開口数は $10 \sim 60$ 個であることを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 2】

複数の外壁材を、互いにその側端部を突き合せて下地材に装着すると共に、上記側端部の突き合せ部分の表面側には弾性目地処理材を被覆してなり、

また、該弾性目地処理材の内部には、多数の穴を有し該弾性目地処理材が貫通可能な多穴シートを配置し、

かつ上記弾性目地処理材の表面には弾性塗料を被覆してなる外壁の無目地構造であって

、
上記多穴シートは、上記外壁材の側端部を突き合せることによって形成される目地線に沿った長径部と、上記目地線に直交する方向に沿うと共に上記長径部よりも短い短径部とからなる開口部分を有し、

かつ、上記長径部の長さは $1.2 \sim 6 \text{ mm}$ であり、上記短径部の長さは $0.8 \sim 3 \text{ mm}$ であることを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 において、上記多穴シートの厚みは、 $0.2 \sim 0.6 \text{ mm}$ であることを

特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 4】

請求項 1～3 のいずれか一項において、上記多穴シートは、合成繊維からなる編物又は織物であることを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 5】

請求項 1～3 のいずれか一項において、上記多穴シートは、合成樹脂のシートであることを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれか一項において、上記長径部の長さ L に対する短径部の長さ N の比 N/L は、 $N/L = 0.8 \sim 0.5$ であることを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 7】

請求項 1～6 のいずれか一項において、上記多穴シートは、上記開口部分の周囲に形成された、上記長径部に沿った経地部と、該経地部に直交する緯地部とを有し、かつ該緯地部はその中心線が一直線状に形成されていないことを特徴とする外壁の無目地構造。

【請求項 8】

請求項 1～7 のいずれか一項において、上記開口部分は楕円形状、長方形形状、菱形形状のいずれかであることを特徴とする外壁の無目地構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

次に、請求項 2 の発明のように、複数の外壁材を、互いにその側端部を突き合せて下地材に装着すると共に、上記側端部の突き合せ部分の表面側には弾性目地処理材を被覆してなり、

また、該弾性目地処理材の内部には、多数の穴を有し該弾性目地処理材が貫通可能な多穴シートを配置し、

かつ上記弾性目地処理材の表面には弾性塗料を被覆してなる外壁の無目地構造であって

上記多穴シートは、上記外壁材の側端部を突き合せることによって形成される目地線に沿った長径部と、上記目地線に直交する方向に沿うと共に上記長径部よりも短い短径部とからなる開口部分を有し、

かつ、上記長径部の長さは $1.2 \sim 6 \text{ mm}$ であり、上記短径部の長さは $0.8 \sim 3 \text{ mm}$ であることを特徴とする外壁の無目地構造がある。

この場合には、上記のごとく、多穴シートの上下に位置する弾性目地処理材を作業性良く、充分に一体化できると共に多穴シートと弾性目地処理材とも一体化でき、仕上がり外観を向上させ、一層、クラック防止を図ることができる。